

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)6月5日号 No.1794

目次

■ 日口間の「カルチャーマーケティング」 —国際ショーディエフ財団ロシア支部長に訊く—	1
■ 統計速報 2019年1～4月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／6 2019年1～4月の日口貿易／7	6
■ トピックス 「中央アジア+日本」対話・第7回外相会合／8 新潟クボタがモンゴルで農機販売開始／9 カザフスタンとの直行便就航、年内に実現か／9 日口欧間の鉄道コンテナ輸送に係る日口協力／9	8

日口間の「カルチャーマーケティング」 —国際ショーディエフ財団ロシア支部長に訊く—

はじめに

2016年12月のロシア・プーチン大統領訪日の際に、日口間における人的交流の拡大に向けた方策の1つとして定められ、様々な二国間行事、文化イベント、人的交流が行われた2018年の「日本におけるロシア年」および「ロシアにおける日本年」(日口交流年)の閉会式が、来る6月の大阪G20サミットにあわせて行われる。2018年5月26日にモスクワ・ポリショイ劇場で行われた開会式には両首脳をはじめとする日口の政府関係者や企業関係者、分化・交流関係者等、約1,100名もの参加者が集まった。文化はこれまでも日口関係の重要な要素であり、近年のロシアにおける日本のポップカルチャー(J-POP)の影響力の著しい拡大には注目せざるを得ない。

21世紀におけるナショナルカルチャーの役割は質的に変わりつつあり、例えば、国家の「ソフトパワー」や「文化GDP」といった概念がこれに関連する。このような形で、文化交流は政治においても経済においても影響力をもち出している。

1996年に設立された国際ショーディエフ財団は、おそらくロシアで唯一の「日本向けの」民間財団である。長年にわたり日口間の文化交流を支援してきた実績をもち、日口交流年では多くのイベントにおけるキーパートナーとなった。このたびロシアNIS貿易会では、同財団のモナホヴァ・ロシア支部長へのインタビューの機会を得たため、本速報では、その内容を紹介したい。